

じゅりみち

原本

……仮設支援情報……



第45号 発行日 97.11.20

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL: 078-578-6921 / FAX: 078-578-6923

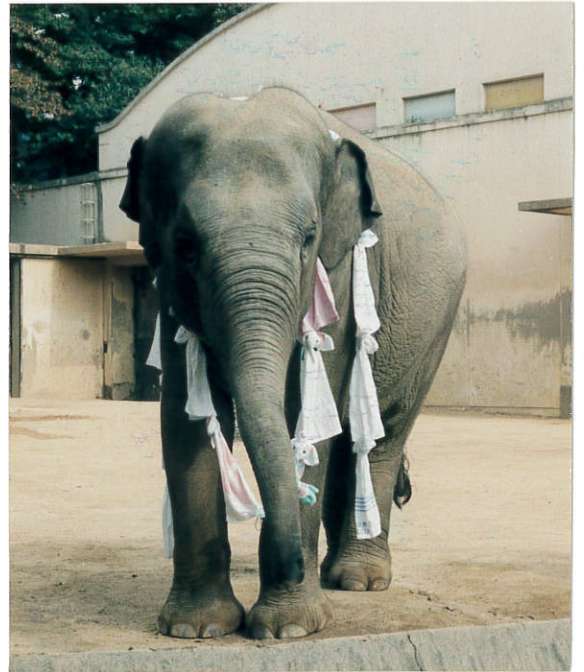
E-mail: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

朝晩めつきり冷え込む季節となりました。色づいた街路樹の葉が風に舞い散るのを見てると、去りゆく秋への感傷とともに、そろそろ冬支度をはじめなきゃ……なんて感じます。1997年晩秋。震災から2年と10ヶ月目の「じゅりみち」をお届けします。

先月からの事務局の動き

- 10/24(金) 小野南中学校(兵庫) 視察受け入れ
- 10/25(土) 「もやい」ミーティング
- 10/30(木) 村井くん、北朝鮮支援報告会(大阪)
- 11/ 2(日) 「ぞうさんいっぱい」まけないぞう展示会
～ 3(月) (神戸・王子動物園)
- 11/ 5(水) フェリシモプロジェクト代表者ミーティング
- 11/ 7(金) 事務局会議
- 11/ 8(土) 「震災がつなぐ全国ネットワーク」設立総会
～ 9(日) (名古屋)
- 11/ 9(日) 演劇キャラバン「てくてく」(神戸・浄福寺)
- 11/10(月) フォーラム企画委員会
「もやい」ミーティング
- 11/12(水) 全体会
- 11/16(日) 演劇キャラバン「てくてく」(神戸・法泉寺)
演劇キャラバンはこの日が千秋楽
みなさんご協力ありがとうございました!
「まけないぞう」出店(神戸/真野小, 蓮池小)
- 11/20(木) 「じゅりみち」45号発行
- 11/26(水) 全体会



王子動物園のぞうさんも 「まけないぞう」を 応援しています!

右上の写真は、10月29日、神戸市立王子動物園のぞうさん、ズゼちゃんと撮影した「まけないぞう」です。首にかけているのが「まけないぞう」タオルなのですが、やっぱり本物のぞうさんは大きい!

ズゼちゃんは被災した子どもたちを励ますために、ラトビア共和国から送られたメスのぞうさんです。この日は休園日を返上して、撮影に協力してくれました。

11月2・3日には同動物園にて「まけないぞう」展示会も開催。いろんな所で少しずつ輪が広がっています。

「まけないゾウ」で被災者支援の輪広がる 新品タオルをゾウの形に 仮設の高齢者らが作り販売

被災地支援をタオルでつなごう。仮設住宅に住む高齢者らが、市民から寄せられた新品タオルでゾウの形のお手ふきタオルを作成、販売し、被災者の生活再建のステップに役立てる「まけないゾウ」運動が広がりをみせている。今月2、3両日、神戸市灘区の王子動物園では、手作りの「まけないゾウ」200枚が集まり、展示された。姉妹品として生まれた子ゾウの名前も公募され、近く決まる。

震災直後から被災地のボランティア活動を続けている「阪神・淡路大震災『仮設』支援NGO連絡会」(本部・神戸市長田区)が、仮設住宅から新居に移転後も仕事、生きがい、人のつながりなどに「だれもが、気軽に参加できる息の長い支援が必要」と西宮市内の仮設住宅に住むおばあちゃんのアイデアから生まれたゾウをかたどったお手ふきタオルを導入した。新品タオルは被災者により、「まけないゾウ」として全国へ定価400円で販売。材料費など引いた分が仮設NGOの被災地支援活動資金に役立てられる。

問い合わせは、長田区御蔵通5の5の仮設NGOの078-578-6921 (FAX078-578-6923) まで。

(11月7日・毎日新聞)

♡ 新品のタオルください ♡



全体会の報告 ~11月12日~

今、仮設住宅の歯抜け状態が目立ちつつあります。それは、災害復興公営住宅への移転によるものや、持ち家の方が家に戻っていくという新たな局面を迎えているからです。それによって、治安の問題であるとか、様々な課題が浮上ってきています。仮設に暮らす被災者の方々にとっては不安な毎日を送っている方も少なくないでしょう。

一元募集としては最終に当たる第4次募集も10月末に締め切られ、12月末には結果発表があり、来春には仮設から公営住宅への移転が始まっていくことになるでしょう。そんな中で、仮設に残っていく方々は一体どれくらいおられるのか、また、その残る方々のこれからは……

今仮設NGOの全体会では、以上の現状から予測される仮設住宅の今後について、私達は一体何をすべきなのか、何が必要になってくるのかを話し合っています。

仮設住宅の撤去が神戸市内でも始まり、徐々に不安感のようなものが広がりつつあります。そんな中で、どこの仮設が残っていくのか、どれくらいの人々が残っていくのか、そして、どのような事態が起こりうるのか等を考えていく必要があるということから、各団体が活動の中で聞いた声、事例などをペーパーで挙げてもらうことになりました。それらの事例を検証し、その中から見えてくるもの、課題等をまず整理をしていく。そんな作業が今後必要になってくると思います……

ここで、各団体から挙げられた事例を紹介致します。

(右参照)

このような事例があがってきています。これらの中に含まれている問題を整理してみると、以下のようなことが考えられるのではないのでしょうか。

まず、行政の復興計画の中に仮設住宅の今後が明確にされていないために、被災者の中に広がっていく不安感というものが考えられます。「自分が住んでいる仮設はどうなるのだろうか?」ということや、「公営住宅は抽選制だから当たるかどうか分からない」などといった不安。その様な不安を取り除くに行った意味でも、住民の気持ちを配慮した細かい情報というものを流していく必要があるのではないのでしょうか。

そしてもう一つ。それは、前段の部分にも絡んでくるんですが、被災者とともに考えていくということです。「第1希望にこの公営住宅を書いてもらえますか?」という行政からの勧誘がある、という事例も耳に入ります。行政主体ではなく被災者主体で行政も被災者と一緒に考えていけるような基盤を作っていく必要があるのではないのでしょうか。

今後、この議論を継続して続けていく予定です。

<各団体から挙げられた事例>

○震災直後なかなか仮設住宅に当たらなかったため仕方なく一般の住宅に住んでいた私達は、仮設住宅に住んでいる方のように県営住宅には申し込めない。

○子どももいるので食べていくために仕方なく働いているのですが、私のようにある程度の収入があるものは、母子家庭であっても家賃の安い県営住宅には申し込めない。申し込めるのは家賃の高い復興住宅。

○震災後仕事もなく、収入も極端に減り、暮らしていけないので生活保護願いを申し出た所、若いということで却下され、仮設住宅入所を希望すれど(自宅は半壊)、1年1ヶ月希望が受け入れられず、ようやく今年入居した。

提言・提案チームから



皆さん、「公的援助を求める請願署名」にご協力いただき、有り難うございます!!

私達、阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会が加盟している「公的援助法」実現ネットワークが今月26日(水)東京にて、公的援助法要請活動を行います。

11月26日(水) 終日国会付近で行動(参議院へ要請行動・国会周辺デモ行進・各省/各党へ要請行動など)

黄色い帽子・上着・マフラー・スカーフをできるだけ身につけてきて下さい。

※25日(火)夜神戸発~27日(木)神戸着の夜行バスも運行されます。

※問い合わせ:「公的援助法」実現ネットワーク(TEL: 078-577-8893)

国会では、未だ「継続審議」という形のまま審議されずにいます。これからも私達は公的援助法実現のため、声を挙げていきたいと思っております。



未使用

テレフォンカードく・だ・さ・い



《仮設は今..》

兵庫区編

私達は今年の5月より、隔週で須佐野仮設でお茶会をしております。4月までは同じ公園内に拠点を置いていた関係もあり、公園を出てからも親しくさせて頂いています。

当初は60世帯いた人達も、公営住宅の募集の度に減って行き、今では20世帯21人と、1棟に20世帯入れる棟に、中には2世帯だけという所もあります。前とは、少し違った空気が流れています。

お茶会はというと、自分達と、須佐野の世話人さんで、住人を対象で始まったのですが、今では、その周辺の人達や、通りがかりの人、近所の市営住宅に引越された人という様に、コミュニティーの場も少しずつ移り変わっています。残された人達という言い方が正しいとは思いませんが、住人の人達は、



常に現実と向い合い、その中から、楽しく毎日を送れる方法を自分達で見い出しているように思います。『仮設といつても、そこに自分達は住み、そこで、生活がある。』ある日の、住人の人の言葉です。苦しいとか、早く出たいとか思う前に、日常がある。この人達は、本当の意味で生きているんだなあ、と、勝手に思いました。

須佐野仮設の人の中には、市営住宅の募集(今回は最後の大きな募集と、言われています)に応募しなかった人もいます。

行政の考え、私達の想い、住人の人達の現実。立場とか、色々それぞれにあると思うけど、私は、今を、現実を、大切にしたい。と思います。

(ぐるうぶ・えん 村田和久)

ふれあいセンターの作品展

フェリシモ共同プロジェクト(もつとずつときつと)
シティーライト、つぶら、プロジェクト1-2
プロジェクト結ぶ、あ・ひろの会

日時：11月25日(火)～11月29日(土)
10:00～18:00

場所：GALLERYむろひろば TEL/FAX：078-222-1909
問い合わせ：シティーライト・TEL：078-579-1470(山田)
つぶら・TEL：078-871-4789(安国)



「こころの国際化」フォーラム

～子どもたちの『こころの国際化』～共生意識を育む～

時間：12月4日(木) 14:00～16:30(受け付け3:30～)

場所：兵庫県立のひびく会館

主催：兵庫県、(財)兵庫県国際交流協会

問い合わせ・参加申込：ハガキまたは電話・FAXで

(財)兵庫県国際交流協会「こころの国際化フォーラム」係
〒650神戸市中央区下山手通5-7-18兵庫県下山手分室2F
TEL：078-382-2051 FAX：078-382-2053



『としっこひろば』で

いっしょにあそぼう!

『としっこひろば』では毎週、子どもたちからお年寄りの方までみんなで楽しい時間を過ごしています。興味のある人は遊びに来てね。

- ・アジアのおもちゃやゲームがいっぱいあるよ!
- ・アジアの本がいっぱいあるよ!
- ・楽しいイベント(不定期)をやってるよ!
- ・10名のスタッフがお待ちしています!

日時：毎週日曜日 13:00～17:00

場所：聖公会長田センター

(神戸市長田区御蔵通6丁目162)

問い合わせ：聖公会長田センター

TEL：078-576-8448 FAX：078-576-8442



イベント情報

第2回「御蔵学校」

2泊3日の行程で、被災地の現状や住民の方の取り組みを、参加者ご自身の目と耳で知っていただける様な「カリキュラム」を用意いたします。

- ・御蔵の1000日/御蔵地区を歩く/「復興まちづくり」とは
- ・西須磨地区に訪問/真野地区に訪問
- ・仮設住宅訪問/「これからのまち」を考えるワークショップ

時間：12月19日(金)～12月21日(日)

場所：神戸市内

参加費：宿泊込み 5,000円 宿泊のみ 3,500円(資料・謝礼代)

問い合わせ・参加申込：まち・コミュニケーション

TEL：078-382-2051 FAX：078-576-7961



地球環境フェアIN神戸ガレッジセール

毎日先着250名様400個のアルミ缶で作った空き缶ザウルスといっしょに無料撮影会

時間：11月29日(土)～11月30日(日)

11:00～16:00

場所：神戸国際展示場1号館2F
(ポートライナー市民広場駅下車すぐ)

主催：神戸市環境局

関西電力株式会社 神戸支店

問い合わせ：クリーン神戸リサイクル株式会社

TEL：078-251-5461



三度目の転居の先で

—仮設住宅から復興住宅へ—

昨秋から始まった公営復興住宅の入居募集。10月28日には最大規模となった4度目の募集が締め切れ、12月に抽選結果が発表されます。今年に入ってから10月末までに、10,964世帯が仮設住宅を後にし、新たな住まいでの暮らしをはじめました。

元の住まいから避難所へ、避難所から仮設住宅へ、そして仮設住宅から復興住宅へ。震災から三度目となる転居先の様子を、神戸市兵庫区の復興住宅で活動を続けている有光さんに綴っていただきました。

226世帯、うちシルバーハウジング92世帯。周囲は工場街で、昼はトラックが行き交い、夜は人通りが少ない……ここは、私たちが今年4月からお付き合いのある復興住宅東営明和住宅です。

引越のお手伝いが縁で始まったおつき合いです。いろいろな仮設から、それぞれの事情を抱えてこられた方々が、新しい住まいで落ち着かれるまで、さまざまなことがありました。

まず仮設と違い、近所の生活音が全く聞こえない中、不安感、孤独感でいっぱいになったお年寄りが、耐えきれず救急車を呼ぶ……入居当初、1日2~3台の救急車が明和住宅に来るといっても少なくありませんでした。

また警報システムがよく分からず、真夜中に鳴らしてしまう方があり大騒ぎになったり、トラックの行き交う道路が恐くて外出できない方や、反対に、外出して道に迷ってしまう方もいたり……私たちボランティアも大忙しの毎日でした。

そんな中、5月末にはシルバーハウジング入居者対象に生活援助相談員(LSA)が月~金の9~17時まで常駐し、安否確認や緊急時の対応を行うようになったり、8月には自治会が発足したりと、入居者同志が顔を合わせる機会も増え、活気も少しづつですが出てきました。

しかし、自治会発足にあたっては、むずかしい問題がたくさんありました。明和住宅には、入居者が使用できる「コミュニティープラザ」という集会所があるのですが……ここは自治会の管理とされており、自治会が発足されないと、皆の寄れる場がないということ。自治会づくりが急がれたのですが、どんな人がどういう状況で住んでいるかもわからない中での役員選出はできてはつづれる……を数回くり返し時間がかかりました。

そして9月半ば……使用できるようになったコミュニティープラザで皆の寄れる「ふれあい喫茶」をしませんかという私たちボランティアの提案に5名の入居者の方が「昔、店やつとってんよ」「家におつてもつまらんしナ」と次々に集まって下さり、喫茶「ひまわり」がオープン、続いて「手芸クラブ」もでき本当の入居者同志のふれあいがスタートしました。

現在は「ひまわり」も「手芸クラブ」も明和住宅入居者の方が主体となって運営しています。

仮設と違い、恒久的な住宅の中でのコミュニティーはやはり、そこに住み続ける方々が中心となって、近隣地域の方々とも連携をとりながら築いていく……そして、私たちボランティアは、そんなみなさんと常に顔の見える関係を保ちながら、末永い側面支援を……と考えおつき合いをしています。

(プロジェクト1-2 有光るみ)

多くの幸せを奪い、多くの尊い命までも奪った震災より、仮設での3年目の冬を迎えようとしています。西代仮設住宅では30人という尊い命が亡くなりました。

生きる権利の元にこの寒くてすさまじい風の入る厳しい冬を仮設で迎えようとしています。誰一人と孤独死を出さないために全世帯に毛布を支給し、年越しそばを一軒一軒くばり、「来年も元気で!」のお声がけをしたいと思います。

皆様の支援カンパにより今年も奉仕活動を続けさせて下さい。ご協力をお願いします。

問い合わせ：コリアボランティア協会 (06-717-7301)

郵便振替 : 00920-6-29408

加入者名 : コリアボランティア協会



緊急のお願ひ!
コリアボランティア協会

震災がつなぐ全国ネットワーク

KOBEの検証

阪神・淡路大震災では被災地内外の多くの人々が救援活動に参加しました。初めての活動や専門外の活動で感じた戸惑い、活動の中で見つけた人と人との連携の大切さ。震災の中から学んだ出来事や震災の中で感じた事柄を活かしていくために、全国各地の団体が集まって、これまで会合を重ねてきました。

この中で愛知の「震災から学ぶボランティアネットの会」が中心となって、救援物資についての検証活動を進めてきました。以前「じゅりみち」にも同封させて頂いたアンケートも盛り込んで、間もなく成果がまとまります。

救援物資をとことん追及したこだわりの冊子！
間もなく発刊です！

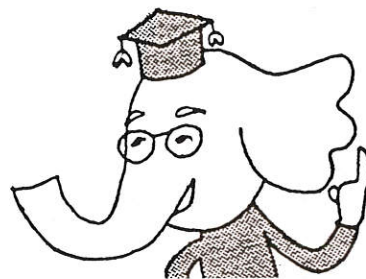
その名も、

“物資が来たぞう!! 考えたぞう!!”

～阪神・淡路大震災から学ぶ、救援物資の送り方、受け方、配り方～

ちよつと長いタイトルだけど、今はやりの“まけないぞう”にあやかって命名、来年1月17日を発刊予定としています。どうぞご期待下さい！

思えばさかのぼること1年3ヶ月前の96年8月、名古屋を拠点に活動している私たちは、地域のイベントに全国キャラバンを迎えた。すでに震災から一年半以上が経ち、「震災は終わっていません」と叫ぶ声もむなしくこだましていた頃である。実はこの出会いが私たちの活動の大きな節目となったのである。つまり、被災地が震災を全国に発信し続ける、そして被災地外はもう一度被災地を見つめ直し、それを地元に戻元していく。この作業の大切さに活路を見出した私たちは、早速会に[KOBEの検証]運営委員会なるプロジェクトチームを立ちあげ、震災ボランティアの特に救援物資をテーマに検証を行うこととした。「震災を忘れない」

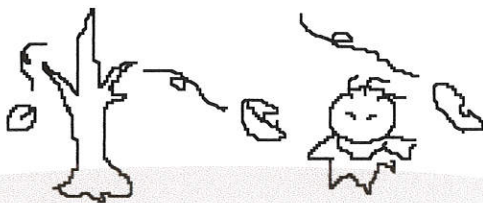


ぞう博士

とは単に被災地へ通い続けることだけではないこと、そして「震災から学ぶ」とは単に私たちだけの自己満足に終わらせることなく、社会へ提言していくことでその真価を問いつけていくこと。この重大な発見を得、やがて、趣旨に賛同する全国の仲間との協働作業へと話は展開する。どんなことでも同じようなことを考え、協力を惜しまない人々はたくさんいる。そして今、どんどん広がる大きな枠ぐみの中でその冊子が生まれつつある。

発刊予定日を2ヶ月後に控え、具体的な編集作業を担うプロジェクトチームの熱い熱いメンバーにより、最終段階の作業を進行中である。編集会議も30回を越える。その私たちのエネルギー源は、全国キャラバンとの出会いの感動である。一方、全国との協働作業による冊子発行は、また新たな感動を呼び、いろいろな人のエネルギー源になればいい。この冊子が次なる災害に本当に役に立つように。そして、この冊子がもう一度被災地を見つめ直すきっかけとなることを願いつつ。

(震災から学ぶボランティアネットの会
事務局長 栗田暢之)

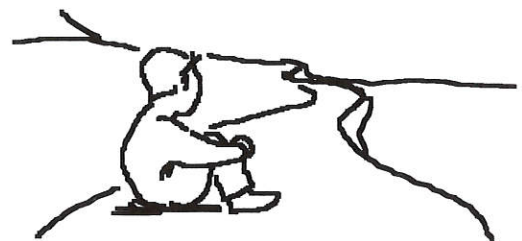


島にて……

阪神・淡路大震災のもう一方の被災地、淡路島。

港を囲む小さな集落は新材の家が目立ち、震災の後建てられた建物も多いらしい。小さな規模の仮設住宅が何力所か建っていて、空き家ばかりが目立っていた。来春の明石海峡大橋の開通を目前に、島のあちこちで行われている大きな工事。ここもまた、いろんな意味での転機が訪れているのだな、と思った。

(仮設NGO事務局 福田和昭)



原本

第3回 市民とNGOの「防災」国際フォーラム

—1998. 1. 15~17開催—

年明けの1月、震災から3年を刻む15日から17日にかけて、第3回市民とNGOの「防災」国際フォーラムが開催されます。最初にこのフォーラムが開かれたのは震災の年、'95年の12月。催しの一環として行われた、仮設住宅住民に元の街を見学してもらうバスツアーは非常な好評を得、会場で討議された意見を元に「神戸宣言」を採択して幕を閉じました。

2回目のフォーラムが開かれたのは今年1月。北は北海道から南は九州まで、全国16カ所で支援のイベントが開催され、約300台のアートトラックが会場に駆けつけました。被災者の声を丹念に拾い集める作業に始まり、被災地の様々な課題を議論し、1回目のフォーラムに引き続き「'97神戸宣言」を採択しました。

第1回フォーラム(1995.12.8~10)

くらし再建へ「いま」見すえて

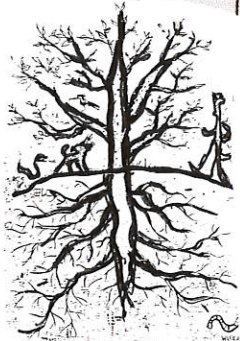


・「神戸宣言」策定 「生きていて本当によかった。ても帰る家がない」

・私たちの街は「いま」
～仮設住民の市街見学バスツアー～ 「決める」

「語り出す」 「つくる」

「学ぶ」 「つながる」



第2回フォーラム(1997.1.17~19)

くらし再建 道筋ここから

- ・「神戸宣言'97」策定
 - ・「100の提言」 「おとなも、子どもも、人として誇りをもって住まい、
 - ・市民文化祭 くらすまちと社会」
 - ・アートトラックフェスタ
 - ・全国の支援イベント 「育てる」
- 「忘却は最大の敵」

3度目となる今年のフォーラムは、「自ら描こう “明日のくらし”」がテーマです。当日行われる討議を通じて、「市民がつくる復興計画」を策定します。

「復興計画」なんていうと難しい漢字やカタカナの並んだ文章を想像してしまいます。けれどもこのフォーラムでつくろうとしている「復興計画」は、自分たち一人一人の人生

や、あるいは家族や友達や仲間が住むまちの復興の姿が描かれるもの。港や道路の計画ばかりが並んでいる計画とは違った、温かくて親しみやすい復興計画が生まれるはず

です。前回のフォーラムでは全国のみなさんに、全国各地で被災地につながる支援イベントの開催を呼びかけま

自ら描こう “明日のくらし”

した。今年もすでに神奈川と福岡で支援イベントの開催が決まっています。

震災から3年目の区切りとなるこの1月、あなたももう一度、阪神・淡路の被災地に思いを寄せて見ませんか。出来れば一緒に神戸のまちで、共にこの催しに参加してみませんか。

「フォーラム」という言葉は、もともと古代のローマで人々の集う広場を意味するのだそうです。たくさんの方がつながるきっかけとなった被災地の「フォーラム」に、多くの顔ぶれが集まることを願っています。

